



百日咳（百日咳菌）

百日咳とは何でしょうか？

百日咳は、伝染力の強い細菌性（バクテリア）の病気で、“風邪のような”症状から咳に進行します。感染後数日の内に、咳により息切れや顔が真っ赤になったり、息が詰まるようになったり、時に嘔吐を伴うといった症状を含む、激しい咳発作が出てくることがあります。

この病気にかかった人（罹患者）が咳き込んだ後、呼吸をする時に“ヒュー”というような音が聞こえることがあります。幼い乳児は身体が未発達の為、通常はこのような音が聞こえることはありません。百日咳はどのような年齢でも罹りますが、2才以下の乳幼児では、症状は深刻になり、特に生後3か月以下の乳児の場合、咳発作の後に呼吸が困難になる事があります。

この症状はどの位続くのでしょうか？

咳は3か月ほど続く事があります。（そのため、“百日”咳と言われています） 予防接種を終えた人や予防接種を一部済ませた人でも、百日咳にかかることはありますが、そのような人は一般的に軽い症状で済みます。

どのようにしてこの病気に罹るのでしょうか？



百日咳は感染症の中でも他人へ伝染しやすい病気の一つです。百日咳は、咳を媒介とする接触により、人から人へ伝染し、6～20日（通常は9～10日）の内に発症します。

百日咳菌は、咳やくしゃみによって生じる飛沫が肺分泌物から体内に取り込まれ、人に感染します。感染した人は、最初の症状が出てから3～4週間の間、他者への感染力があります。

どのような治療が必要でしょうか？



もし、ご自身やお子さんに百日咳の疑いがあるのなら、掛かりつけ医（GP）を訪ねてください。掛かりつけ医が検査をし、必要に応じて特別な抗生剤を投与し、治療します。抗生剤は、感染期間を短縮させ、症状を軽減させます。

感染した人は、他人に近づかないこと、特に1才以下の乳児や妊娠後期の妊婦に近づかないようにしてください。

感染した人は、抗生剤を摂取する14日周期の最初の5日間は、職場、地域集会、学校や保育園に近寄らないようにしてください。

抗生剤が投与されない場合は、咳の発症から21日間は他人との接触を避けてください。



咳は、しばしば幼児にとってストレスになりますが、ベッドでの休息、十分な水分補給、刺激の少ない食事を取る事により、咳のきっかけとなる要素を軽減させ、ストレスを乗り切らせる事に効果的です。病気が継続している間は特に、医師と連絡を取り合うことは大事です。

どのようにして伝染を防ぐのでしょうか？



適切な時期に予防接種を受けることが、病気の罹患を防ぎ地域社会への伝染を抑制する最良の方法です。

小児期予防接種計画の一環として、5回まで無料で百日咳のワクチンを地域の医師から受ける事ができます。この予防接種については、掛かりつけ医と相談をしてください。

予防接種を受けた子供でも百日咳を発症することはありますが、一般に症状は軽く済みます。

感染者はどのような治療を受けて伝染を防ぐのでしょうか？

抗生剤治療は、百日咳の罹患者に接触した人にも行われることがあります。これは百日咳に罹患した場合に重篤な症状になりがちな、1才以下の乳児への感染を防ぐためです。

最近百日咳と診断された患者がいる為、1才以下の乳児が感染する危険性のある家庭や保育園では、乳児の周りの家族や保育園の人に対し抗生剤治療が必要とされる場合があります。

掛かりつけ医や病院からの報告を受け、地域社会や公共保健機関がこの手配をします。(Ph 364 1777)

妊娠後期の妊婦のいる家庭で百日咳にかかった人がいる場合、新生児への感染を防ぐために、家庭の人全員が一連の抗生剤治療をする必要があります。

質問や、家族が百日咳に罹患している疑いがある場合及び、百日咳と診断された患者と接触した場合には、掛かりつけ医に相談してください。

パートナーシップ ヘルス カンタベリー発信 2012年3月